

窓辺

あんどろ
安藤 隆敏

秋に鳴く虫たちの世界

唇間、キリギリスの「ギ
ーツ・チョン」と鳴く音を
聞くと、暑さが倍增するの
は私だけでしょうか。程な
く秋に変わると、別の鳴き
声が聞こえてくるでしょ
う。文部省唱歌「むしのこ
え」にも出てくるマツムシ
は「チンチロ チンチロ
チンチロリン」、スズムシ
は「リンリンリンリン リ
インリン」、コオロギは「キ
リキリキリキリ」、クツワ
ムシは「ガチャガチャ ガ
チャガチャ」、ウマオイは
「チョンチョンチョンチョ

ン スイッチョン」などで
す。

羽をこすり合わせて鳴く
虫たち。その音色は古くか
ら鑑賞の対象とされ、多く
の人々に愛されてきまし
た。しかし、この鳴く虫の
音色を楽しむという文化
は、中国や日本に限られ
ると言われます。

多くの欧米人は鳴く虫の
出す音を右脳で処理、つま
り自動車のエンジン音のよ
うな雑音としているよう
です。一方、日本人は会話や
音楽を聴くのと同様に左脳

で処理しているため、音の
美しさや心地よさに気付き
「聞きなし」を楽しむこと
ができるのです。自然の事
物現象との距離が非常に近
いことが、私たち日本人の
特質と言えます。

虫たちは四季に合わせた
1年サイクルの生態を示し
ていて、卵で冬を越すため
に産卵する場所も種によっ
て異なります。また、食物
連鎖の世界を生き延びたも
のだけが成虫となり子孫を
残すという自然の摂理のこ
とも思うと、歌の「聞きな
し」よりも複雑な音色を聴
き分けられるような感性に
つながるでしょう。

(浜松科学館館長)